

2014.06.7・8 第22回パート・派遣など非正規ではたらくなかまの 全国交流集会in fukuoka

6月7日（土）全体会 参加者449名

歓迎行事

「博多にわか」という伝統芸能で全国から集まった参加者を迎えてくれました。お面をつけて博多弁で落語の様に1人で何役もしたり、2人で掛け合いをします。話は必ずオチをつけるのが決まりだそうで、上手いオチで笑いをとり、会場は一気になごやかな雰囲気になりました。



主催者挨拶

大黒作治さん（全労連議長）は挨拶の中で、「限定正社員は解雇自由、生涯派遣労働者で低賃金に縛りつけるものだ。正社員ゼロ法案に労組が全面から闘うことが大切だ。最賃は大きな課題だが、首都ではもう1000円では振り向かない。ファーストフードの労働者が1500円を要求し、ドイツでは法定最賃が1190円に改定される。中国などでも最賃は上がっている。最賃の格差が10年で106円から205円にまで広がった。大幅賃上げと均等待遇の運動と広げよう。安政権の暴走政治への反撃は1点共闘で広がってきた。積極的に関わり、学習し、たたかう決意にしていこう」と呼びかけました。

記念講演

「ブラック社会は許さない！ダンダリンnたたかいは続く」

講師 田島 隆さん（漫画ダンダリン101原作者 筆名とんたにたかし）

父親のDVの連鎖から母親からの虐待を受けて幼少期を過ごした田島さんは、小学生になると同級生や年上の子から激しいいじめを受けます。母親からの暴力とネグレクトに対し、幼い田島さんはどうすることもできなかつたと話しました。

夫と離婚し、生活保護で暮らし始めた母親と兄弟3人の暮らしは一向に良くなる事はありません。高校2年生15歳の時、母親から自活するように突き放された田島さんは生きるためにアルバイトをしなくてはならず、やむなく中退。中卒の学歴で様々な職種を経験します。成人に代行運転の仕事に就いた時、専務に届けた休みの申請が社長に連絡されておらず、「勝手に休んだことで損害を被った。うちは無断欠勤者には給料を払わない」と一方的に責められ辞めさせられます。

その時に駆け込んだ市役所で労働基準監督署の存在を教えられ、藁にもすがる思いでダメモトでもいいと思い、労基署で教えてもらった「内容証明」を書いて社長に給料を支払わせた経験から、“これが大人の喧嘩だ。手に職をつけるより、頭につけよう”と一念発起しました。その後、司法書士の事務所でおしかけアルバイトをしながら独学で「海事代理士」の資格に合格。現在「海事代理士行政書士」を取得。『カバチ!!!』『ダンダリン101』『極悪がんば』などの原作者でもあります。

「極悪がんば」は特に田島さんと暴力団と関わった実体験が反映しているとのことでした。人生を赤裸々に語ってくださった田島さんの様々なエピソードに、それぞれの立場で人生の教訓を得たこと



と思います。

非正規センター事務局長の江花 新さんの基調報告の後、全国でたたかう仲間のリレートークと争議団からの訴えがありました。



パート・臨時労組連絡会を立ち上げたかごしまは“パリンジャー”という戦隊を結成しています。「学び、楽しく運動をする」をモットーに、様々な運動の場に登場させ、今やかごしまの人気者になっています。規制概念にとらわれることなく、イエローが2体登場するなど、明るいキャラクターでパ臨の運動を広く知らせる活躍をしているという報告がありました。

6月8日(日)

14の分科会講座を開催

第9分科会：なくせ「女性の貧困」～安倍政権の「女性活躍」は何をねらう？

NHK クローズアップ現代「明日が見えない」を視聴

助言者からの問題提起

地域の実状の交流

TV 中の問題提起：低賃金の壁、保育・学童保育の壁がある。今の制度は豊層に有利な制度だ。パートの賃金が抑制されており、シングルが厳しい現実がある。給付つき税額控除など、貧しい家庭に向けた制度にする必要がある。単身女性の1/3が114万未満(貧困)全体で110万人。

(例) 19歳女子。コンビニ早朝と夜で週15h働いて月5万円。母子家庭で姉妹4人。1万円を家庭に入れて、専門学校を希望している。



- ・20代シングルマザーの80%が貧困。
- ・女性は男性の半分の収入。一般職は25歳の賃金で据え置き。再就職でも低賃金。
- ・郵便事業の新一般職は正規と同じ仕事で6割の賃金。
- ・少子化対策として政府は女性の企業支援といっている。社長にさせるのではなく個人請負で社会保障無しをねらっている。
- ・最賃闘争の中でも女性に働き方の方向からも運動を。
- ・介護現場の非正規化が進んでいる。介護の正規職員が条件の良い掃除の仕事に転職していた。ヘルパーの過当競争で仕事が減っている。(石川)
- ・自営業で苦しい人が生活保護の人を見て同情できないなど、貧困になると優しくなれない。(石川)
- ・10年働いているが賃金が上がらない。上げない理由を103万の人が困るからと経営者が言うのでアンケートを実施。結果、困る人は3人だったことをつきつけても上がらない。(広島)

- ・一人一人が人間らしく生きるためにどこをベースにするか。
- ・国は世帯モデルを出しているが個人が生活できることが大切。
- ・103万に抑えるために有休もとらない。(群馬)
- ・103万、130万で働きを抑制することは自分の権利を捨てる事。権利の抑制効果になっている。
- ・生活防衛の為の103万、130万の壁になっている。
- ・働きたくても働けない人がいる。男女共に8hで食べられる賃金にしなければならない。
- ・働き方を問題に税金の使い方を論議しなければ女性の分断になる。
- ・正規も非正規も一緒に議論し、政権を注視していくことが大切。
- ・女性が労組で発言していく。改悪に反対していくことが求められる。

参加者から、非正規や職場の実態の発言とそれを受けての助言者からのアドバイスやこれからの運動の方向性の話がありました。職場で「103万でいいの」「これ以上働きたくない」という仲間をどうすればいいのかという悩みや我が子や友人の非正規の話など多岐にわたりました。

非正規パレード

非正規の労働条件の改善を求めて沿道に訴えながら天神駅周辺をパレードしました。

